

## <爪の変形（陥入爪、巻爪）>

巻き爪、陥入爪とは主に母趾（足のおやゆび）の爪の端が皮膚にくい込んだ状態です。最初は無症状でもだんだん爪がくい込んでくることにより痛みが生じ、その部位が“じゅくじゅく”（潰瘍化）してきます。細菌感染を併発すると肉のかたまり（肉芽組織）が生じて、靴を履いたり、歩くことが困難な状態になります。

当科ではそのような患者さんに対して、状態に応じて手術や矯正用ワイヤーを用いた治療をしております。

### 【手術による治療】（保険治療）

局所麻酔下にくい込んだ爪を根元まで切除し、爪の根である爪母を薬品（フェノール）で処理します。くい込んでいた部位の爪は生えてくることはありませんが、爪の幅が多少狭くなります。日帰り手術で所要時間は約20分程度です。手術の際、局所麻酔が痛いこと、手術後に多少痛みが生じる場合があることが欠点ですが、再発はほとんど無く、翌日からシャワーが可能です。

### 【矯正用ワイヤーを用いた治療】（自費治療）

シャープペンシルの芯程度の太さのワイヤーを、爪全体またはくい込んだ爪の部分にのみ挿入して爪の矯正を行います。矯正直後より爪はある程度広がり、痛みがほとんど無くなることが多いようです。1～2ヶ月おきにワイヤーの位置を入れ換えます。ワイヤーを入れる際、爪にだけ穴をあけるので痛みは全く生じません。所要時間は約5分程度です。また、細いワイヤーを用いるので日常生活にほとんど支障は生じません。ただし激しい運動をされる方にはお勧めしません。血をさらさらにするお薬（血液凝固阻止剤）を内服されている方や、糖尿病、下腿の血管の病気のある方など手術が比較的困難な方、手術が絶対に嫌な方にお勧めです。

（ワイヤーによる矯正治療は保険がききません。自費になります。）